

リモートシャックの構築

JJ1SXA 池

本誌第 58 号で「インターネットを利用した遠隔操作」についてという記事を書き、触れたように、遠隔操作の免許変更届は済ませていたものの、他の事でこちらは中途半端のままだったが、年末になって急に思いたち、関連記事が出ていた **CQ** 誌を引っ張り出して読み返したり、インターネットの関連サイトを見たりして取り組んでみました。

リグのコントロールは、以前に済んでいました、と言っても別のリグで汎用ソフトとインターフェースケーブルでの実験は、なかなかうまくいかず、仕方なく、リグを取り替えて、専用ソフトと専用ケーブルを使い、ソフトのインストールだけで何も難しいことは無く、ソフトを立ち上げると画面にリグのパネルが表示され、色々の操作が簡単にできるようになったのでした、ともあれ、後は **PC** のリモートだけ、と思っていたのですが、音声の受け渡しをどうするのか？忘れていましたが、これが後で苦勞する事になりました。

PC のリモートのソフトはフリーウェアの **Real Vnc** を使う事にして、ダウンロード、インストールの後、サーバーオプションもパスワードの設定以外は殆ど書き変えるところは無く、**PC** 名を **IP** アドレスで設定、リモートを許可する **PC** の **IP** アドレスを打ち込んで設定完了、リモート **PC** の **Viewer** 画面でパスワードを打ち込むとホスト **PC** のデスクトップ画面が出現、こちらからホスト **PC** の操作ができます、ルーターのポート設定も必要無く、リグのリモートより **PC** のリモートの方が簡単でした。

VNC (Virtual Network Computing) は、ホストマシンのデスクトップを手元のリモートマシンから使えるようにするもので、**AT&T** ケンブリッジ研究所で開発されたシステムです、**AT&T** ケンブリッジ研究所は、以前は **ORL (The Olivetti & Oracle Research Lab)** でしたが、1999 年 1 月に **AT&T** に買収されて名前が変わり、更に 2002 年 4 月 23 日を以て閉鎖され、元の開発メンバーが新しい会社 **RealVNC** を立ち上げて、新しいバージョンの開発等はこちらで引き継がれているそうです。

PTT は **PC** 上で働くものの、リグと **PC** 間の音声の受け渡しができません、残された問題は、一番肝心の事です、さあどうしよう？

最新のケンウッド機 **TS480** は、リグもソフトも全て対応しているようですが、私のリグでは別の方法で対応をしなければいけません。

調べたら、**CQ** 誌 (04'12、P60) の記事 (コラム欄) に、「遠隔操作の音声の送り受けには高音質で全二重の通信ができる **Skype** を使っています・・・」とあり、別のホームページには「**MS** メッセンジャー・**MS** ネットミーティングを使用している」との記事も見つけましたが、以前から使っている **Skype** に決定、これを利用する事にしました。

リグのスピーカー端子からサウンドボードに **AF** 信号を入力するのは手持ちのケーブルを利用、サウンドボードの出力をリグのマイク端子に入れるのは、片方は **3.5** φス

テレオプラグ、もう一方は **8** ピンマイクコネクタのケーブルを作り、回り込み対策にコアを巻いて **PC** とリグのマイクを接続、受信は良好ながら送信がイマイチ、各局からレポートをもらいながら、マイク・スピーカーのレベル調整やリグのマイクゲインの調整を繰り返したが余り使い物にならず、ケーブルの中間に **10K Ω** のボリュームや抵抗、コンデンサー等を入れて調整を繰り返し、もう少し対策が必要ながら、何とか **QSO** できるようになり、随分時間がかかりましたが、とりあえずリモートシャック完成です。

それにしても、**PC** につないだリグが **PC** の画面上で操作できて、更にその **PC** を別の場所から別の **PC** で操作できるのは、**2** 台の **PC** が、インターネットにつながっているの、当たり前と言えれば当たり前のことながら、私には一寸感動ものでした。

レスポンスも良いし、タイムラグも余り感じません、とは言うものの家庭内での実験ですので、遠隔地になったらどのくらいのタイムラグがあるのかわかりません。

というわけで、今度はノート **PC** とマイクや **LAN** ケーブルを持って、**JP1PFM** 寺井さんの所にお邪魔し、**LAN** ポートを借りて実験したいと思っています。

大分離れた所の自分のシャックにあるリグから電波を出して、それを直接モニターできれば、シャック内で別のリグでのモニターとは全然違って、何とも不思議な感覚でしょう、また、東村山市からの **QSO** ですと、本来なら、自分が移動しているのですからポータブル東村山市となるところですが、東村山市は遠隔操作所で、無線送信所は立川市です、一寸ややこしくて混乱しそうですが、相手局から見れば、オペがリグから大分離れた所にいるだけで、立川市にある無線局との **QSO** です、「**QTH** は立川市、東村山市から遠隔操作です」が正解です。

リグの遠隔操作はできるようになりましたが、ローテーターの遠隔操作はできるようになっていないので、アンテナは **GP** か固定ビームでの運用になってしまいます。

次は、ローテーターを遠隔操作してアンテナを回したいものですが、またまた何時になるかわからずです、調べてみたら、専用のソフトもあるようですが、私のローテーターは対応しているのか？対応していないと交換しなければいけません、買い替えの予算は無いし、結局はできずじまいの可能性大、まあ無理でしょうが、将来はリグのみならず、ローテーターやリニアアンプ、更に仰角ローテーターまで全てをリモートコントロールできるようにとの大きな夢を持ち、何とか実現させたいと思いますが、実現できるのが先か、自分の意思に反しての **QRT** が先か、それが問題です。 **hi**

こんなことばかりに時間を費やして **QSO** の時間が少なくなり、本末転倒というべき状況、本来は何時でも何処からでも、多く **QSO** したいための設備ですから、もっと **QSO** をする時間を増やさなければと、いつも通りの反省ですが、まずは完成半ばながら、お祝い？反省？の一杯が先になり、一杯が二杯・・・となってしまい困ったものですが、やはりウマイ！！

(反省は、ほんのちょっぴりで酒量多し・・・こちらは、マズイ！！)